

部会員の障がい児に係る取組と課題の共有

令和5年度第2回の障がい児部会にて、ライフステージごとの支援や切れ目のない支援等を協議していくに当たり、既存の取組に対し、新たな気づきや多様な視点からの意見交換を引き出すため、部会員の取組や課題を共有することとした。以下、内容を更新したため共有する。

※令和6年度組織改正により「福祉事務所」を「4 障がいサービス課」に変更した

« 網掛け »が追記した内容

| 担当 | 取組内容 | 課題等 |
|-------------------------------------|--|---|
| 1 児童発達支援センター ※子発支援ガイドブック…P.53～61 | 児童発達支援事業 日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・より丁寧な支援を必要とする家庭の増加 ・家族同士の親睦や情報交換の機会の減少 ・待機児への対応 ・平行通園先や他事業所との関係性 ・個々の課題に合わせた支援の質の向上 |
| | 保育所等訪問支援 保育所などを訪問し、他の児童との集団生活への適応のための専門的な支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・障がい児という括りでなく、全ての子どもという視点での支援に関する考え方の相違（事業所と保育園等） ・平行通園児の増加による、学齢児の療育的支援に関する通常級やあいキッズとの連携不足 ・事業所卒園後の関わり（通常級への進級後の不登校） |
| | 障がい児相談支援事業 障がい児通所支援（児童発達支援・放課後等デイサービスなど）を利用する前に障がい児支援利用計画を作成し（障がい児支援利用援助）、通所支援開始後、一定期間ごとにモニタリングを行う（継続障がい児支援利用援助）等の支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画作成に当たっての適切な支援量の考え方 ・待機者への対応 ・計画相談から離れ、通常級に進級した方への対応 ・他機関との連携不足 |
| 2 放課後等デイサービス事業所 ※子発支援ガイドブック…P.56 | 放課後等デイサービス事業 一人ひとりの個別支援計画に基づいた支援（①自立支援と日常生活の充実のための活動 ②創作活動 ③地域交流の機会の提供 ④余暇の提供）を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・待機児への対応 ・他事業所や関係機関との情報共有や連携 ・医療的ケアが必要な児童の受け入れ拡大の為の取組 ・支援の質の向上 ・多様な家庭環境や障がい特性の児童に対応できる指導員の育成 |

| | | |
|---|---|--|
| 3 健康福祉センター （健康推進課） ※子発支援ガイドブック…P.16 | 地区担当保健師による相談・育児相談 地域の担当保健師が子どもの発育・発達、子育ての様子などについての相談を受ける。相談内容により、心理相談の案内や専門機関等を紹介する。育児相談日は多職種（保健師・栄養士・歯科衛生士等）で相談を受け、計測あり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の理解を得ることや他機関との連携が全ての事業において継続的な課題。その中でいかに早期発見をし、必要な支援に繋げるかを検討している。 ・健康福祉センターで実施している各母子保健事業を通して、要支援の児を早期発見し、いかに速やかに必要な支援につなげられるか。 |
| | 乳幼児健康診査 4か月児、1歳6か月児、3歳児を対象に、発育・発達の確認や保護者からの相談対応、必要に応じて、経過観察健診や専門医療機関を紹介する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の同意が無い中では、他機関との連携が難しい。 |
| | 心理相談 1歳6か月歯科健診、3歳児健診時に、心理相談員が発達や日常生活の困りごとについて相談を受け、発達状況の確認や日常生活上の助言を行う。必要に応じて専門医療機関や療育機関の利用について案内する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・見立てをして、適切な相談先に繋ぐことを目的としたための相談であるため、単発又は少数回で相談は終了するため継続相談としては利用できない。 |
| | 発達を支援する親の会 発達に気がかりがある就学前の子どもをもつ保護者を対象に、年6回、板橋・赤塚・志村健康福祉センターにて、ミニ講座や交流会を開催する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在は「おやこっこ」を実施している児童館に周知をお願いしているが、将来的には他の児童館とも周知のための連携が図れると良い。 |
| 4 障がいサービス課 ※子発支援ガイドブック…P.54 | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス利用等に関する相談窓口 ・障がい福祉サービス・障がい児通所支援等の支給決定、受給者証発行 ①児童福祉法に基づくサービス（児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援） ②障害者総合支援法に基づくサービス（居宅介護、短期入所、移動支援、日中一時支援） 等 | — |

| | | |
|----------------------------------|---|---|
| 4 障がいサービス課 | サポートファイル 子どもの生い立ちから現在の生活に至るプロフィールや、医療、保育、教育機関等における成長の記録や支援内容をまとめたファイル | ・ 現場での周知が課題 |
| 5 保育サービス課 ※子発支援ガイドブック…P.28～29 | 要支援児保育事業 心身等に障がいをもつ児童を、保育所において一般の保育の利用児童とともに集団保育 | ・ 要支援児の増加傾向による保育士の不足 ・ 専門相談員の不足 |
| | 居宅訪問型保育事業 障がいや疾病により個別の医療的ケアが必要で、集団保育が著しく困難と認められるお子さんを、保護者の自宅において1対1で保育する事業。 | — |
| 6 保育運営課 ※子発支援ガイドブック…P.28「 | 医療的ケア児保育事業 保育の必要性があり、医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養、導尿、血糖値測定とインスリン）が必要でかつ受入要件を満たしたうえで、集団保育ができる3歳児クラス以上の児童を対象。令和6年度は3園増やし受入園は5園。新たな3園については、医療的ケア児担当看護師の常駐とせず、巡回委託としている。現在の医療的ケア児は導尿、経管栄養の2名であり、2園が支援を行っている。 | ・ 医療的ケア児保育事業開始時はケア終了の想定をしていなかったため健常児への切替時期等でガイドラインの修正が必要 ・ 現場での周知が課題 |

| | | |
|---|--|---|
| <p>7 CAP'S 児童館 ※子発支援ガイド ブック…P.66</p> | <p>ほっとプログラム「おやこっこ」「げんきっこ」 発達が気になる子どもと保護者を対象に、歌や体操、手遊び、絵本の読み聞かせなどを通じて、親子の楽しい遊び場を提供し、相互の交流を行う事業 「おやこっこ」（0～2歳児・月2回実施）は、職員による活動及び臨床心理士による座談会を実施。「げんきっこ」（3～5歳児・月1回実施）は職員による活動と座談会を実施。 また、日常の子育て相談により、必要に応じて専門機関を紹介する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉センターの1歳半検診前後で保健師と連携するタイミングが課題 ・参加を促すため保護者へのアプローチ方法が課題 |
| <p>8 子ども家庭総合支援センター支援課 ※子発支援ガイド ブック…P.68</p> | <p>相談ニーズがある保護者からの相談支援 子どもなんでも相談や電話・来所による保護者から相談を受け、子育て相談員が丁寧に対応する。</p> | <p>—</p> |
| | <p>要保護児童対策地域協議会（要対協）の実施 地域の関係機関に対して集合型とアウトリーチ型で年4回開催し、対象児童の情報共有を行う。</p> | <p>—</p> |
| <p>9 地域教育力推進課</p> | <p>支援員の加配 特別な支援を保護者が希望する際、要件を満たすことで支援員を加配する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が就労等をしておらず、特別な支援等が必要な場合、加配がなく児童対応をすること ・保護者の協力が必要となるケースの発生、対応の複雑化 ・有資格者の職員確保（数年の勤務経験や認定資格研修の受講） ・特別な支援等を必要とする児童の重度化や多様化を背景とした支援の質の向上 |

| | | |
|---|---|---------------------------------------|
| | 要支援児巡回指導 専門知識や経験を有する者があいキッズを巡回指導することで、支援等が必要な児童の受入環境整備、あいキッズ受託法人職員の資質向上を図る | ・ 特別な支援等を必要とする児童の重度化や多様化を背景とした支援の質の向上 |
| | 要支援会議 専門員による研修を年1～2回実施し、あいキッズ受託法人職員の要支援児対応力向上を図る | ・ 特別な支援等を必要とする児童の重度化や多様化を背景とした支援の質の向上 |
| 10 指導室・学務課・地域教育力推進課 ※子発支援ガイドブック…P.35 | 医療的ケアが必要な児童・生徒等への支援 区立小中学校等に看護師を配置し、必要な支援を行う 導尿、インスリン、胃ろうの医療的ケア児を受け入れており（令和5年度3名）、令和6年度は血糖値測定、インスリン対応の児童1名に対する支援を開始した。 | — |
| 11 指導室 | 特別支援アドバイザー派遣事業 通常の学級に非常勤の心理職が訪問し、特別な支援を必要とする児童・生徒の行動観察、学級経営支援等に係る助言を行い、組織的支援力の強化を図る。 | — |
| | 個別的知能検査事業 発達検査の受検を希望する児童・生徒に対し、学校において検査を実施し、検査結果の所見を児童・生徒の特性に合わせた支援・指導に活用する。 | — |
| | 専門家相談事業 作業療法士や言語聴覚士等の専門家を学校に招き、その知見から指導に係る相談、助言を受け、教職員の専門性向上を図る。 | — |